

令和6年度 標準的学力調査の結果

学校支援課

令和6年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。

1 教科の平均正答率（％）について

※観点の知・技とは、知識・技能、思・判・表とは、思考・判断・表現を示す

【中学校2年生・理科】

領域	観点	問題のねらい	新潟市	全国
粒子	知・技	化学変化のうち、分解について理解している。	35.0	67.4
	知・技	ガスバーナーの使い方を理解している。	39.0	44.2
	思・判・表	コーンスターチの影響を判断するための実験に必要な物質を選び、目的にあった実験を構想できる。	30.1	26.5
	思・判・表	原子・分子のモデルを使って、化学反応式をつくることができる。	50.9	48.6
生命	知・技	細胞による呼吸について理解している。	38.5	60.1
	思・判・表	つくられるデンプンの量の理論値が誤っている理由を説明できる。	4.9	20.6

【中学校2年生・英語】

領域	観点	問題のねらい	新潟市	全国
聞く	思・判・表	日常的な話題について聞き、要点を捉えている	52.8	48.0
	思・判・表	英文を聞き、その要点を捉えて、自分の考えを英語で書いている	32.7	29.4
読む	知・技	対話文を読み、文構造や文法事項を理解している（不定詞の形容詞的用法）	63.7	73.8
	知・技	対話を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選んでいく	21.0	38.2
	知・技	スピーチを読み、その内容を理解している	39.5	53.8
書く	知・技	文の語順を理解し、正確に書いている（接続詞 that）	72.7	67.9
	知・技	文の語順を理解し、正確に書いている（SV00）	45.9	44.0
	思・判・表	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている（whichを使ってどれが好きかたずねる）	39.1	37.5

2 課題となる問題と指導のポイントについて

【中学校2年生・理科】

「粒子」「生命」領域の知識・技能に課題がある。記述式では実験や理由の説明に課題が見られた。基礎知識の定着がポイントの1つである。実験結果の解釈がスムーズになる、日常生活や他の現象と結び付けるなど、活用思考力の向上に

つながる。基礎知識定着のために視覚教材やデジタルツールの活用が有効である。その際、「ただ見せる」のではなく、途中で「この後どうなったか」「この実験の意味は何か」など学習済みのことを思い出せるように問いかけていくと効果的である。

また、アウトプットを意識した思考力の育成が大切である。今まで学習したことを意識して振り返る場を設定すると、知識の定着につながる。「目には見えない物の変化」「時間に伴う変化」を結果として扱う観察・実験では、モデル図やグラフを活用すると結果のポイントを押さえやすくなる。

【中学校2年生・英語】

対話文を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選ぶ問題では、正答率が21.0%であった。スピーチを読み、書き手の意見に対する自分の考えと理由を書く問題では正答率が41.2%であった。

授業では、目的場面状況の設定の工夫や、聞く、読む視点をつかませてから学習に入る等、生徒が必要感を持って聞くことができる工夫が大切である。書く学習活動では、内容を明確にし、穴埋め形式にして、単語や短いフレーズを書くところろから始めるなど書くことへの抵抗感を減らす手立ても有効である。こうした工夫から語順の理解にもつなげるとよい。